

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029・227・6020

FAX 029・227・6291

高線量地帯に向かって列車を走らせるな！

9・22水戸集会に結集を！

JR水戸支社は、7月5日常磐線を全線開通させ、特急列車を仙台駅から品川まで走らせる事をマスコミ発表しました。

さらに7月中旬各労働組合に、「常磐線・富岡～浪江間の運転再開に向けての準備について」なる提案をしてきました。

19年度末の再開を見込んでいるとし、「普通列車及び東京から仙台間を結ぶ特急列車の運転を再開することとする。具体的な

運行計画は、決定次第お知らせする」としています。

しかし、同時に会社が説明した資料でも大野駅～双葉間の線路内の空線量は、2・3マイクロシーベルトトあります。7月10日付東京新聞が掲載した測定線量は、大野駅から双葉駅間に10マイクロシーベルト以上の箇所があります。今も双葉町、大熊町は、年間50ミリシーベルト以上の帰還困難区域なのです。そのど真ん中を、乗客を乗せ列車を走らせて安全なのでしょうか？

常磐線全線開通は、一般的にはいい事です。しかし、福島第一原発の事故がいまだに収束していない中で、健康被害と被曝の問題について絶対



JR常磐線が来春



全区間直通特急復活へ

完全復旧 仙台へのアクセス改善も

安全であるとならない限り、運転再開を考へてはならないのです。福島第一原発の脇を走るのは、原ノ町地区に限定。水戸支社の提案には、もう一つ重大な「乗務区間の変更」というものがあります。

JR東日本は、東京電力 山台を直通で結ぶ特急列車を走らせている。

菅野は東日本大震災の大津波や原発事故により、久ノ浜(福島県いわき市)が「巨理(宮城県巨理町)が不通となった。その後、段階的に復旧し、常磐線地区域を含む富岡(福島県富岡町)～浪江(同県浪江町)の二〇・八が最後に残されて

震災前は原ノ町まで乗務してました。当然の方が効率的です。しかし、今回いわき運輸区と原ノ町運輸区を分断し、被曝する事が必至である福島第一原発の脇を走るのは原ノ町運輸区としたのです。いわき運輸区は、現在も富岡まで乗務しており、訓練がいらぬかもしれないませんが、業務量が増える原ノ町運輸区への多数の運転士・車掌の転勤が不可欠となります。いわき運輸区の乗務員を富岡までとしたのは、怒りが広がらないようにする卑劣なやり方です。社宅も寮もない原ノ町地区に転勤させてまで、運転を再開させなければならぬのでしょうか？

大熊町の復興計画は、大野駅周辺を特定復興再生拠点区域として、2022年春頃までに避難指示解除を目指すとしています。その計画からしても、2年も早く列車を走らせる必要はありません。

「高線量地帯に向かって列車を走らせるな！」を掲げ、水戸駅前駿優会館において、13時から集会とデモ行進を行います。常磐線の全線開通は、放射性物質を仙台から東京・品川まで撒き散らすこととなります。そして、何より乗客と乗務員を被曝させる事になります。さらに、勝田車両センターで、その電車はメンテナンスを受けるため、その作業にあたる労働者も被曝するし、車両を清掃する労働者も被曝します。もちろん保線、電気、通信、駅の労働者も内部被曝をとめないガンになり、健康を害したら、二度と健康な体には戻れない事がほとんどです。こんな百害あって一利なしの常磐線全線開通に反対しましょう。

震災前は原ノ町まで乗務してました。当然の方が効率的です。しかし、今回いわき運輸区と原ノ町運輸区を分断し、被曝する事が必至である福島第一原発の脇を走るのは原ノ町運輸区としたのです。いわき運輸区は、現在も富岡まで乗務しており、訓練がいらぬかもしれないませんが、業務量が増える原ノ町運輸区への多数の運転士・車掌の転勤が不可欠となります。いわき運輸区の乗務員を富岡までとしたのは、怒りが広がらないようにする卑劣なやり方です。社宅も寮もない原ノ町地区に転勤させてまで、運転を再開させなければならぬのでしょうか？

こんな事で被曝し、健康被害を強制される事を許してはなりません。9・22水戸集会に結集し、デモ行進をやるう